# 現代日本雜感（一）小池東京都知事

加藤　淳平

平成二十八年七月三十一日、東京都知事選擧施行せられ、小池百合子氏當選す。我、東京都民ならざれば、都政には風馬牛なれども、日本の首都が政治なれば、彌次馬的關心無しとせず。されど都知事最適任者は增田寛也氏なるらむと思ひたるに、東京都民の選びしは、小池百合子氏なりき。

この都知事選擧、近年の、地方選擧の施行せらるる度に、投票率低下の常例續きたる中に、投票率を高めたるは、瞠目すべきことならずや。小池氏、增田氏等有力候補の舌戰、有權者が關心を喚起したるべし。我、アメリカ型、フィリピン・中南米型民主主義の狂騷型選擧、今や東京に定したるを感ず。小池百合子氏、狂騷型選擧の勝者となりぬ。

小池氏、女性政治家として最初の防衞大臣等の要職を歷任せる拔羣の知名度、容姿、東京オリンピック・パラリンピック大會を控へ、強調せられたる英語力、アッピール力、シンボル・カラーを綠に統一する等の巧みなる選擧戰術に加へ、自民黨古參黨員なるに拘らず黨より冷遇せられたりとて、日本人が判官贔屓の心情に訴ふる作戰奏功す。自民黨東京都議團實力者に逆らひ、自殺に追込まれし都議が未亡人の應援を得たるは、弱者の味方なるイメージを強めたり。

增田寛也氏の、豐かなる職務經驗より、都知事の權限範圍を知悉し、權限を越ゆる政策論を自制せる、狂騷型選擧には徒となり、終始、くすみたる印象を免れず。加之數多の泡沫立候補者中に、一時「政界牛若丸」など稱せられ、自民黨代議士・閣僚なりし山口某なる者ありて、增田氏に個人的怨恨ありしや、小池氏と連攜せるや知らざるも、泡沫候補に平等に與へらるる政見發表時間を使ひ、名指しせざるも巧みに、增田氏の最も得手なりと目せらるる政策遂行能力を中傷し、同候補の信用を毀損す。かくて小池氏の自ら述ぶる如く、「風が吹」き、小池氏がイメージ作戰、劇場型選擧戰術が奔流の前に、增田氏は爲す術無く壓倒せらる。兩氏の百萬票を超ゆる得票差、そを如實に示すものならずして何ぞや。

選擧に勝利せる小池百合子氏、都知事就任後も、選擧中と同じきイメージ操作を續く。新聞・テレビをして、築地より移轉豫定の豐洲新魚市場建物建設の、專門家會議の報告を無視し、地下への盛土を行はざりしを報道せしめ、恰も、新魚市場の衞生・安全の脅かさるるが如き印象を與へたり。

報道の行はれたる新市場建物地下の「空洞」は、專門の建設用語にては「ピット」と呼ばるる構造物にして、新市場建物の如き大規模建設物の地下には必須の施設なること、言を俟たず。地下の配管等に支障あらば、場合により巨大機器を進入せしむる必要あれば、かなりの大いさの空間たらざるを得ざらむ。地下の汙染物資を防ぐ爲、盛土の代りに、厚きコンクリートを張りたる、地下汙染物資對策として萬全なるは、コンクリート上に溜まりたる水の檢査結果に自明なり。

從ひて今マスコミの騷ぐ豐洲新市場建設問題は、「空騷ぎ（Much ado about nothing）」以外の何物にも非ず。

されど小池百合子知事、この「空騷ぎ」が成功により、意圖するは何ぞや。よもや實相

を知らざる儘、只闇雲に、マスコミを誘導するには非ざるべし。抑も新市場移轉先の、都廳が當初の反對に拘らず、豐洲の、地下に汙染物資堆積の恐れある東京ガス工場趾地に決したる裏に、都議會等の不明朗なる動きありしやは、今も多くの人の疑ふ所なり。

小池都知事、若し斯かる都政の闇の摘發に向はんとする暴勇ありとせば、豈我とて、この人への不信感を撤回せざらんや。

（平成二十八年九月二十六日受附）